千葉県立東部図書館　資料展示　　令和８年１月17日～３月18日

災厄の時代を生きる

-記録が伝える日本の近現代-

関東大震災、太平洋戦争、東日本大震災。日本社会は幾度となく大きな災厄と向き合ってきました。そのたびに、作家や知識人は出来事を記録し、問い、言葉として残してきました。
今回の展示では、三つの歴史的危機に焦点を当て、災害や戦争に直面した時代の作家たちの思想をたどります。作品を通して、困難な時代に人々が何を見つめ、どのように語ろうとしたのかを考える契機とします。1923年・1945年は主に日記文学を、2011年は詩歌や小説も含めた幅広い文学作品を集めました。

＜1923年 関東大震災＞

所蔵は全て東部図書館

	書名	著者等	出版社	出版年	請求記号
1	関東大震災文豪たちの証言	石井 正己 編	中央公論新社	2023	21069/110
2	寺田寅彦語録	堀切 直人 著	論創社	2012	2891/ﾃﾄ10
3	震災画報	宮武 外骨 著	筑摩書房	2013	36931/238
4	生きて行く私 上 p126	宇野 千代 著	毎日新聞社	1983	91026/U77/1
	朝鮮人が襲撃してくるという噂におびえ、天井裏に隠れる宇野千代と、同棲していた作家尾崎士郎との切羽詰まりながらもコミカルなやりとりが記されています。				
5	島崎藤村短篇集 「子に送る手紙」	島崎 藤村 著	岩波書店	2022	9136/ｼﾄ32
6	荻窪風土記	井伏 鱒二 著	新潮社	1982	9146/I12
7	記憶の絵	森 茉莉 著	筑摩書房	1976	9146/MO45
8	岡本綺堂随筆集 「火に追われて」「九月四日」	岡本 綺堂 著	岩波書店	2007	9146/ｵｷ11
9	与謝野晶子評論著作集 12 「廃墟の美」「大震後第一春の歌」「大震後の生活」	与謝野 晶子 著	竜渓書舎	2001	9146/ﾖｱ5/12
10	断腸亭日乗 1 p242	永井 荷風 著	岩波書店	2024	9156/ﾅｶ10/1
11	編年体大正文学全集 第12巻　鈴木三重吉「大震災火災記」他		ゆまに書房	2002	9186/27/12
12	編年体大正文学全集 第13巻　藤森成吉「逃れたる人々」他		ゆまに書房	2003	9186/27/13
13	編年体大正文学全集　　別巻		ゆまに書房	2003	9186/27/ﾍ
14	天変動く 大震災と作家たち	悪 麗之介 編・解説	インパクト出版会	2011	9186/63
	1896年の三陸沖大津波と1923年の関東大震災を経験した作家たちのアンソロジー。今回の展示では取り上げなかった三陸沖大津波まで時代を遡って作家たちの思いをたどることができます。				

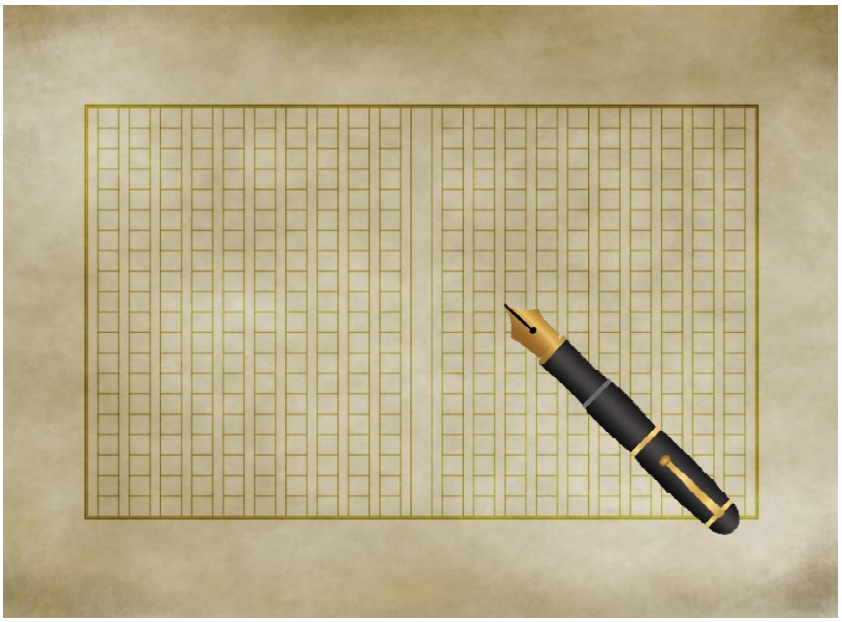
15	文豪たちの関東大震災	児玉 千尋 編	皓星社	2023	9186/87
16	文豪たちの「九月一日」関東大震災百年	石井 正己 編著	清水書院	2023	9186/89
17	おばけずき 鏡花怪異小品集「露宿」「十六夜」「間引菜」	泉 鏡花 著	平凡社	2012	91868/ｲｷ3
18	宇野浩二全集 第12巻 「震災文章」	宇野 浩二 著	中央公論社	1979	91868/ｳｺ1/12
19	葛西善蔵全集 第2巻 「蠢く者」	葛西 善蔵 著	津軽書房	1975	91868/ｶｾ1/2
20	葛西善蔵全集 第3巻 「一種の寂寞とした感じ」「敢て陳辯―菊池君に」	葛西 善蔵 著	津軽書房	1975	91868/ｶｾ1/3
21	高村光太郎全集 第4巻 「美の立場から(震災直後)」	高村 光太郎 著	筑摩書房	1976	91868/ﾀｺ3/4
	震災の二ヶ月後、高村光太郎は『報知新聞』に「美の立場から(震災直後)」という評論を発表しました。被災した東京の復興についても美術家の立場から力強く論じています。				
22	谷崎潤一郎全集 第12巻 「「九月一日」前後のこと」	谷崎 潤一郎 著	中央公論新社	2017	91868/ﾀｼ5/12
23	永井竜男全集 10 「大震災の中の一人」	永井 竜男 著	講談社	1982	91868/ﾅﾀ2
24	正宗白鳥全集 第10巻 「蠟燭の光にて」「歳晩の感想」「私と雑誌」「あの夜の感想」「大地は揺らぐ」	正宗 白鳥 著	新潮社	1976	91868/ﾏﾊ1/10
25	武者小路実篤全集 第7巻 「今後の文芸」	武者小路 実篤 著	小学館	1988	91868/ﾑｻ3/7
26	武者小路実篤全集 第8巻 「六号雑記」	武者小路 実篤 著	小学館	1989	91868/ﾑｻ3/8

＜1945年 終戦・敗戦＞

	書名	著者等	出版社	出版年	請求記号
27	夢声戦争日記抄 敗戦の記	徳川 夢声 著	中央公論新社	2001	21075/140
28	徳富蘇峰終戦後日記 頑蘇夢物語 [1]	徳富 蘇峰 著	講談社	2006	2891/ﾄｿ4
29	徳富蘇峰終戦後日記 頑蘇夢物語 続篇 2	徳富 蘇峰 著	講談社	2006	2891/ﾄｿ4/2
30	徳富蘇峰終戦後日記 頑蘇夢物語 歴史篇 3	徳富 蘇峰 著	講談社	2007	2891/ﾄｿ4/3
31	徳富蘇峰終戦後日記 頑蘇夢物語 完結篇 4	徳富 蘇峰 著	講談社	2007	2891/ﾄｿ4/4
32	海軍日記 最下級兵の記録	野口 富士男 著	文芸春秋	1982	3975/N93
33	日本人の戦争 作家の日記を読む	ドナルド・キーン 著	文藝春秋	2009	91026/1136
	真珠湾攻撃が始まった1941年から、終戦後間もない1946年の5年間、日本人が何を感じ、考えたのかを、永井荷風、高見順、伊藤整、山田風太郎らの日記から読み解いていきます。				
34	回想の戦中戦後	戸板 康二 著	青蛙房	1979	9146/TO26
35	海野十三敗戦日記	海野 十三 著	講談社	1971	9156/U76
36	戦中派不戦日記	山田 風太郎 著	番町書房	1971	9156/Y19
	忍法帖シリーズ等で知られる山田風太郎が、医学生であった昭和20年の一年間を記録した日記。終戦を迎えてこれまで信じてきた価値観が崩れていく様子がつぶさに語られています。				

37	百鬼園戦後日記 上	内田 百間 著	小沢書店	1993	9156/ｳﾋ1/1
38	百鬼園戦後日記 下	内田 百間 著	小沢書店	1993	9156/ｳﾋ1/2
39	南方ノート・戦後日記	大佛 次郎 著	未知谷	2023	9156/ｵｼ2
40	芹沢光治良戦中戦後日記	芹沢 光治良 著	勉誠出版	2015	9156/ｾｺ1
41	福永武彦戦後日記	福永 武彦 著	新潮社	2011	9156/ﾌﾀ2
42	戦中派焼け跡日記 昭和21年	山田 風太郎 著	小学館	2002	9156/ﾔﾌ1
43	戦中派闇市日記 昭和22年昭和23年	山田 風太郎 著	小学館	2003	9156/ﾔﾌ2
44	戦中派動乱日記 昭和24年昭和25年	山田 風太郎 著	小学館	2004	9156/ﾔﾌ3
45	戦中派復興日記 昭和26年昭和27年	山田 風太郎 著	小学館	2005	9156/ﾔﾌ5
46	敗戦日記	渡辺 一夫 著	筑摩書房	2025	9156/ﾜｶ1/25
	フランス文学者らしく、その大半がフランス語で綴られている。敗戦色濃くなってきた1945年3月11日から8月18日までの日記を翻訳、刊行したもの。著者の反戦・反軍思想が読み取れます。				

＜2011年 東日本大震災＞

	書名	著者等	出版社	出版年	請求記号
47	語り継ぐいのちの俳句 3・11以後のまなざし	高野 ムツオ 著	朔出版	2018	91136/607
48	震災歌集 震災句集	長谷川 櫂 著	青磁社	2017	91136/ﾊｶ18
	俳人である著者が震災直後に詠んだ歌集と、翌年出版された本来の生業である句集を合冊して出版。特に歌集には、著者の生々しい感情が感じ取れます。				
49	未(イマ)来タル 詩の礫十年記	和合 亮一 著	徳間書店	2021	9115/145
50	希望の木	新井 満 著	大和出版	2011	91156/ｱﾏ1
51	背中の地図 金時鐘詩集	金 時鐘 著	河出書房新社	2018	91156/ｷｼ11
52	あなたが最期の最期まで生きようと、むき出しで立ち向かったから	須藤 洋平 著	河出書房新社	2011	91156/ｽﾖ2
53	海へ	高橋 順子 著	書肆山田	2014	91156/ﾀｼ58
	千葉県海上郡飯岡町(現旭市飯岡)出身の著者は、震災発生時には東京に暮らしていました。東日本大震災後の喪失と向き合いながら、残された日々をどう生きるかを静かに問いかける詩集です。				
54	詩の邂逅	和合 亮一 著	朝日新聞出版	2011	91156/ﾜﾘ5
55	詩の礫	和合 亮一 著	徳間書店	2011	91156/ﾜﾘ6
56	詩ノ黙礼	和合 亮一 著	新潮社	2011	91156/ﾜﾘ7
57	戯曲福島三部作	谷 賢一 著	而立書房	2019	9126/ﾀｹ3
58	時は立ちどまらない 東日本大震災三部作	山田 太一 著	大和書房	2024	9127/ﾔﾀ4
59	想像ラジオ	いとう せいこう 著	河出書房新社	2013	9136/ｲｾ7
60	神様2011	川上 弘美 著	講談社	2011	9136/ｶﾋ67
61	いつか、この世界で起こっていたこと	黒川 創 著	新潮社	2012	9136/ｸｿ7

62	光の山	玄侑 宗久 著	新潮社	2013	9136/ｹﾂ9
63	還れぬ家	佐伯 一麦 著	新潮社	2013	9136/ｻｶ44
64	希望の地図 3.11から始まる物語	重松 清 著	幻冬舎	2012	9136/ｼｷ45
65	恋する原発	高橋 源一郎 著	講談社	2011	9136/ﾀｹ23
66	馬たちよ、それでも光は無垢で	古川 日出男 著	新潮社	2011	9136/ﾌﾋ34
67	花の億土へ	石牟礼 道子 著	藤原書店	2014	9146/ｲﾐ16
68	麦の日記帖 震災のあとさき2010▷2018	佐伯 一麦 著	プレスアート	2018	9146/ｻｶ6
69	「あの日」からぼくが考えている「正しさ」について	高橋 源一郎 著	河出書房新社	2012	9146/ﾀｹ13
70	三陸の海	津村 節子 著	講談社	2013	9146/ﾂｾ7
	夫・吉村昭が愛した岩手県田野畑村を子どもや孫とともに訪れる。震災の傷跡から復興する力強い村人たちの姿に温かい眼差しで見守ったエッセイ。				
71	瓦礫の中から言葉を わたしの<死者>へ	辺見 庸 著	NHK出版	2012	9146/ﾍﾖ10
72	心に湯気をたてて	和合 亮一 著	日本経済新聞出版社	2013	9146/ﾜﾘ4
73	ゼロエフ	古川 日出男 著	講談社	2021	9156/ﾌﾋ1
74	祈りの作法	玄侑 宗久 著	新潮社	2012	916/ｹﾂ2
75	揺れる大地に立って 東日本大震災の個人的記録	曽野 綾子 著	扶桑社	2011	916/ｿｱ2
	日々伝えられる震災の記録や報道に対して、著者が感じた様々なことが綴られています。キリスト教を根底に据え、戦争も体験した著者ならではの、確固たる信念が感じ取れる一冊です。				
76	それでも三月は、また	谷川 俊太郎 著	講談社	2012	9186/64